

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume **30** 2017.3

〒西南学院大学



聖母マリアの聖心
[西南学院大学博物館所蔵]

所蔵品紹介 特集

キリスト教と結びついた博多織の技

「聖母マリアの聖心」

聖書植物園紹介⑥ 聖書植物園の「からし種(クロガラシ・キダチタバコ)」

企画展紹介 「キリシタンの墓をみつめる」

大学博物館紹介⑳ 国立成功大学博物館(総合館)

学芸員の眼 館外ワークショップ「一博物館の教育普及活動Ⅲー」

SEINAN GAKUIN

1920



SEINAN GAKUIN
1920

聖書植物園紹介 ⑥

聖書植物園の「からし種」

(クロガラシ・キダチタバコ)

聖書植物園 HP <http://www.seinan-gu.ac.jp/shokubutsu/>



【聖句】 更に、イエスは言われた。

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」

(新約聖書マルコによる福音書4章30-32節)

今回は、聖書の中で信仰の奇跡的な力や神の国の驚くべき成長のたとえとして使われた「からし種」についてご紹介します。上の聖句にもあるように、からし種は小さく、成長が早いことに加え、鳥も実際に止まるという特徴が聖書に示されているため、たとえ話と符合するキダチタバコの種であると考えられてきました。しかし、キダチタバコは南米原産のため、聖書が書かれた時代にはありませんでした。ここで言われているからし種は、地中海沿岸を原産とする「クロガラシ」だとする説が有力です。どちらも春先の3-5月に黄色い花を咲かせます。

当館の常設展示室内「聖書植物の世界」コーナーでは、双方の種子を並べて展示しています。実際にどれほど小さい種なのか、お立ち寄りの際はぜひ比較してみてください。



クロガラシ



キダチタバコ

【和名】クロガラシ / キダチタバコ

【英語名】black mustard / tree tobacco

【学名】*Brassica nigra* / *Nicotiana glauca* Graham

【所在】5号館入口 / クロスプラザ横

学芸調査員 阿部 大地

【大学博物館紹介 ⑳】

国立成功大学博物館(総合館)

国立成功大学博物館(総合館)は台湾の台南市に位置し、台湾全土で初めて政府の援助を受けず、大学運営費と国民の寄付のみによって成立した大学博物館であり、2007年11月11日に開館しました。国立成功大学博物館は教員達に文物の収集、保存、陳列、研究を奨励し、また学生に向けての教育の手助けとなるよう日々活動に努めています。台湾国立成功大学の前身は台湾総督府台南高等工業学校であり(1931-1945)、日本統治時代は台湾工業教育の最高学府として、台湾工業教育の重要な基礎を築きました。現在の博物館は当時の建物をそのまま利用しており、外観はノスタルジックな雰囲気を醸し出しています。

分野は歴史、文学、考古、生態学など多岐に渡ります。



建物は2階建てになっており、1階は特別展と常設展、2階は全て常設展となっています。2階の校史を紹介する一室は日本統治時代の校長室が再現されており、そこでは当時の卒業証書・学生服・校旗・校章等の文物が展示されています。室内には校歌が流れており、建学精神を肌で感じることができます。また、国立成功大学博物館は来館者に展示理解をより深めてもらうためにマルチメディアを有効活用していることから、台湾の博物館でも先進的な技術を用いて展示をおこなっていることがうかがえます。

学芸調査員 唐島 慎一



開館時間 / 10:00~17:00

休館日 / 日曜・祝日(春節)、大学休業日 入学試験当日、展示替え期間

入館料 / 無料

お問い合わせ / 〒70101 台南市大学路1号成功校区 国立成功大学博物館

TEL : 06-2757575#63020

FAX : 06-2766516

キリスト教と結びついた博多織の技

聖母マリアの聖心

本資料は、伝統工芸士の木村佐次男氏が制作した博多織の聖絵です。博多織は、鎌倉時代に中国(宋)からその原型が伝わり、帯用の生地として発展してきました。佐賀県馬渡島出身で、カトリック信者である木村氏は、帯の生産が減っていく中、自分の信仰をかたちにしようと、聖絵の製作を始めました。題材は、同じく馬渡島出身で妻であるタキ子氏の実家にあった「聖母マリアの聖心」です。博多織は、「紋紙」と呼ばれるパンチカードたていとで経糸を上下させる指令を出し柄を織り出します。その紋紙の数は、帯の場合約五十枚であるのに対し、本資料の場合約七千枚を要します。本資料の聖母の胸元に描かれているハートは、茨の冠に囲まれた燃える心臓で、聖心信仰に基づく神的愛を強調しています。聖母マリアの精巧さは手織、機械織、西陣織の技術にも精通していた木村氏だからこそ織ることができました。本資料は、製作の際に見本として試験的に織ったもので、原田織物株式会社原田昌行氏から寄贈していただいたものです。



「聖母マリアの聖心」表



「聖母マリアの聖心」裏



帯を織る木村氏

学芸調査員 池永 照美

学芸員の眼 | ー博物館の教育普及活動Ⅲー 館外ワークショップ



西南学院大学博物館の教育普及活動は、前回ご紹介した「せいなんこどもワークショップ」のほかに「せいなんおでかけワークショップ」があります。これは2014年度より大学博物館連携事業(大学博物館連携、地域博物館連携等)の一環として始められた館外ワークショップで、これまでに協定先である長崎県南島原市や熊本県天草市、共同事業先の他大学博物館で開催してきました。

おでかけワークショップでは、こどもワークショップと同様に「楽しく学ぶ」をコンセプトに、大学博物館のPRや交流も主な目的として活動しています。全国の方々に西南学院大学博物館の活動を知ってもらえるよう、今後も続けていきたいと考えております。

学芸研究員 山尾 彩香



博物館通信

2016年12月から2017年2月までに行った博物館活動や出来事の中からいくつかをご紹介します。



12月1日(木)～12月24日(土)

西南学院大学ワークショップ「クリスマスツリーを飾ろう!」を実施しました。



12月1日(木)～2017年 3月22日(水)

南島原市 × 西南学院大学博物館

相互貸借特集展示Ⅶ「語り継がれる島原・天草一揆」を開始しました。



12月3日(土)

2016年度西南学院大学博物館秋季特別展

「異国と福岡 —江戸時代における長崎警備と対外交流—」

第20回特別展関連公開講演会を開催しました。



2017年 1月22日(日)

西南学院大学博物館秋季特別展

「異国と福岡 —江戸時代における長崎警備と対外交流—」は盛況のうちに終了いたしました。



1月24日(火)～5月31日(水)

企画展「キリシタンの墓をみつめる」を開始しました。



1月27日(金)～5月24日(水)

國學院大學博物館 × 西南学院大学博物館

相互貸借特集展示XIII「神道の原型 —古墳時代における祭祀遺跡—」を開始しました。



ワークショップ
「クリスマスツリーを飾ろう!」



相互貸借特集展示Ⅶ
「語り継がれる島原・天草一揆」



企画展
「キリシタンの墓をみつめる」



相互貸借特集展示XIII
「神道の原型
—古墳時代における祭祀遺跡—」



近刊紹介

『西南学院大学博物館 主要所蔵資料目録』

編者：内島 美奈子・野藤 妙・山尾 彩香

監修：宮崎 克則

発行日 / 2017年3月15日 頁数 / 56 定価 / 800円(+税)



開館10周年という記念すべき年に、主要資料の目録を刊行いたします。2006年の開館より、当館は前身のキリスト教資料展示室の資料を基礎に収集を続け、現在ではコレクション展を開催することができるほどまで充実しました。それらは展覧会や研究紀要、資料集などの刊行物などで随時発信しています。このたび刊行する目録は、収蔵品総数約2,000点を再整理したうえで、主要な資料

群である「キリスト教文化」、「日本キリスト教史」、「関谷定夫コレクション」を中心に**図版117点、目録445点**を掲載しています。

今回の刊行により、当館のコレクションを皆さまに広く知っていただけましたら幸いです。

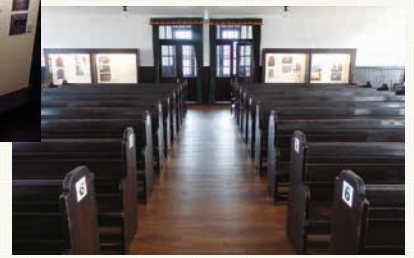
「キリシタンの墓をみつめる」

会期／2017年 1月24日(火)～5月31日(水)

会場／西南学院大学博物館 1階廊下・2階講堂

開催概要

1549年に宣教師フランシスコ・ザビエルにより伝えられたキリスト教は日本全国に広まりました。キリスト教の受容は当時の日本に存在しなかった埋葬方法や墓の形態を生み出しましたが、禁教期には多くの信仰具とともに失われてしまいました。キリシタンの墓について、従来の研究では文字資料による研究が主流でしたが、近年では発掘調査によるモノの資料が増加し、考古学的な研究が大きな成果を上げています。墓はその土地に住む人々の宗教や文化に基づく死生観や政治・社会が反映されるものであり、長く考古学の研究対象として扱われてきました。日本のキリスト教史において、キリシタン墓の形態やその変遷は日本におけるキリスト教受容の様相を明らかにするものです。



本展覧会では、幕府による取り締まりが本格化する前に生み出された、16世紀末～17世紀初頭のキリシタン墓について考古学の観点から取り上げます。当時のキリシタンたちがどのようにキリスト教を受け入れ、どのように墓の形態が変化していったのか、現在判明している調査事例などをもとにパネルで紹介いたします。

連携 特別展紹介

南島原市 × 西南学院大学博物館 連携特別展

初公開資料!

「原城落城のとき

—禁教・潜伏への道のり—

会期／2017年 2月15日(水)～3月20日(月)

開館時間／午前10時～午後6時
(ただし毎週木曜日 正午～午後8時)

休館日／毎週火曜日・毎月最終金曜日

会場／南島原市原城図書館
〒859-2412 南島原市南有馬町E1314番地1

共催／南島原市・西南学院大学博物館

開催概要

本展覧会は、2015年3月に研究協定を締結した、南島原市と西南学院大学博物館の連携による特別展です。

1637年10月に勃発した島原・天草一揆を契機とし、江戸幕府による禁教政策がどのように展開したのか、禁教下の潜伏キリシタンがどのような信仰形態・様相をもっていたのかを歴史的背景をもとに紹介しています。一揆における原城落城のときを禁教・潜伏の世の始まりとして位置づけ、リアルタイムの史料を展示しています。



次回 特別展紹介

2017年度春季特別展

九州のキリスト教シリーズV

「島原半島の信仰と歴史」

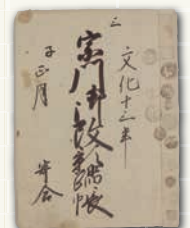
会期／2017年 6月12日(月)～8月7日(月)

会場／西南学院大学博物館 特別展示室・2階講堂

開催概要

戦国時代、島原半島を領有していた有馬氏は、南蛮貿易を行いました。そのなかでキリスト教への改宗をした有馬晴信は、天正遣欧使節をローマに派遣するなど、積極的に活動し、領民もキリスト教へ改宗しています。禁教の世になると、有馬氏の後に島原に入封した松倉氏によるキリスト教弾圧や苛烈な年貢の取り立てなどに対し領民が蜂起し、その後の日本の政治体制に大きな影響を与えることになる島原・天草一揆が引き起こされました。一揆鎮圧後、キリシタン政策はますます強化され、「鎖国」が完成します。島原藩には高力氏、松平氏、戸田氏といった譜代大名が入封し、領地の安寧に向けて様々な政策が行われました。

本展覧会では、島原・天草一揆とその後の島原藩の復興や統治、近代の島原について取り上げます。特に、島原藩で最も長く続いた深溝松平氏に注目し、島原半島の信仰と歴史を概観します。



行事予定

2016年(平成28年)～2017年(平成29年)

【特別展／企画展】

2016年 11月13日(日)～2017年3月1日(水)

西南学院大学博物館 × 國學院大学博物館 相互貸借特集展示XII
「キリスト教信仰のかたち ―祈りの道具にみる多様性―」
[場所] 國學院大学博物館

2017年 1月27日(金)～5月31日(水)

2017年企画展
「キリシタンの墓をみつめる」
[場所] 西南学院大学博物館

1月27日(金)～5月24日(水)

西南学院大学博物館 × 國學院大学博物館 相互貸借特集展示XIII
「『神道』の原型 ―古墳時代における祭祀遺跡―」
[場所] 西南学院大学博物館

2月15日(水)～3月20日(月)

南島原市 × 西南学院大学博物館 連携特別展
「原城落城のとき ―禁教・潜伏への道のり―」
[場所] 南島原市原城図書館

3月2日(木)～7月1日(土)

西南学院大学博物館 × 國學院大学博物館 相互貸借特集展示XIV
「ユダヤ信仰を彩る ―トラーの装飾品―」
[場所] 國學院大学博物館

3月23日(木)～6月上旬

南島原市×西南学院大学博物館 相互貸借特集展示XV
「語り継がれる島原・天草一揆『寛永治迹』の世界―」
[場所] 西南学院大学博物館

3月23日(木)～6月上旬

南島原市×西南学院大学博物館 サテライト展示
「西洋から見た幕末の日本」
[場所] 南島原市原城図書館

【せいなんおでかけワークショップ】

2017年3月11日(土)

せいなんおでかけワークショップ in 加津佐図書館
「ペーパークラフトをつくろう! ―ノア方舟―」
[場所] 南島原市加津佐図書館

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。
なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM



〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務局
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇 [8/10～8/16]

キリスト降誕祭 [12/25]、年末・年始 [12/28-1/5]

入館料 / 無料

来館者揭示板

【来館者の言葉】

40年ぶりに講堂を訪ねました。
中学・高校のOBです。当時は両方共男子校でした。チャペルでの礼拝をなつかしく思い出しました。当時は床のニス(?)か何か薬品のおいぎきつくて吐きそうになることもありました。今は大丈夫ですね。ただ、当時の雰囲気をはぼそのまま残していただいていることに感謝です。
Seinan, be true to Christ.
(2016年12月)

有難うございます。
いつも来館し楽しませて学ばせていただいております。
聖書に出てくる木・花と会うのも楽しみです。3人の子どもも中・高・大それぞれお世話になり美しい場所として私の心の居場所です。
(2017年1月)

05期で現在長崎は南島原で働いています。
とても興味深い展示内容と建築物としての魅力にひきこまれ、つい長居してしまいました。また訪れたいと思います。
(2017年2月)

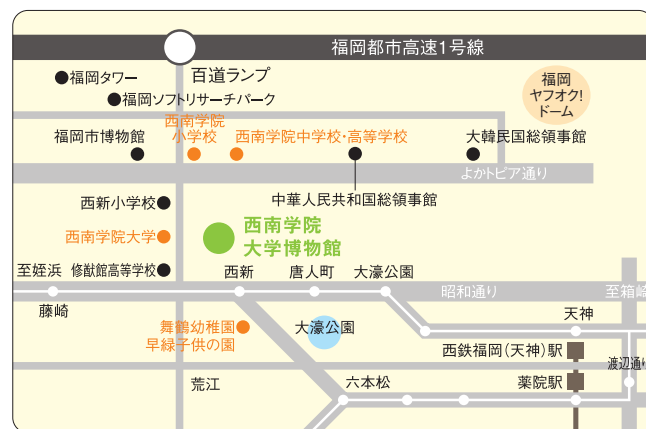
2017年になり西南学院大学博物館は11年目に入りました。
卒業生の方々にも多く来館していただいております。当時の雰囲気を残したまま、常に新たな魅力を発信することで何度も足を運んでいただけるよう取り組んでまいります。
新年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

学芸調査員 秋田 雄也



アクセスマップ

ACCESS MAP



地下鉄

福岡空港 → 西新駅下車...約17分
博多駅 → 西新駅下車...約12分
天神 → 西新駅下車...約8分
※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分



バス

博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分
天神 → 修猷館前...約20分
※修猷館前バス停から徒歩5分



タクシー

福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分